

農業委員が遊休農地を解消し、活動をPR

(奈良県・王寺町農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

【農業委員会の体制】

- 新体制: 農業委員11人、
農地利用最適化推進委員11人(兼任)



1 地区の特徴・状況、課題

- 本町は大阪と奈良を結ぶ交通の要衝として早くから開け、大都市圏の住宅供給地として発展。農地の宅地化が進み、現在は小規模兼業農家が大半を占める。
- 耕作者の高齢化が進み、農業の担い手の減少とそれに伴う農地の遊休化が問題となっている。



2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

- 農業委員会では、平成24年度から「遊休農地の解消のためには自らが活動し地域住民にアピールしていかなければいけない」という思いから、**農業委員が遊休農地を借用・耕作し、解消のモデル地として活用している。**
- ・モデル地では、サツマイモやサトイモ、菜の花を栽培しており、サツマイモは**地域の小学生が植え付けや収穫を行い食育活動の場**としても利用している。
- ・菜の花は、**農業委員と小学生が昔ながらの機具を使い菜種油にし、東大寺へ奉納している。**
- ・また町内イベントの「王寺ミルクウェイ」では令和3年は新型コロナウイルスの影響で規模は縮小したものの、農業委員会のブースを設置し、農業委員自らが地域の野菜の味を知っていただく機会として、栽培したサツマイモやサトイモを販売した。また収益の一部を社会福祉協議会などに寄付している。
- ・これらの解消活動をPRしながら、**平成30年時点で4,650㎡の町内遊休農地を解消している。**